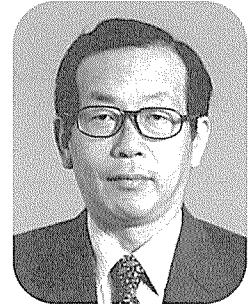


■プレストレストコンクリート技術の 発展のために

魚 本 健 人*



わが国は少子高齢化の時代を迎え、国立社会保障・人口問題研究所の予測では、特別な対策を実施しないかぎりわが国の総人口は2007年をピークに減少の一途をたどり2050年頃には1億人を割り込むと予想している。とくに重要なことは、現在でも14歳以下の子供達の割合が総人口の14%未満であるのに対し、2050年では10%以下になってしまうと予想されている点である。総人口がこれから約40年間でピーク時の25%も減少するという事は、現在のわが国の経済活動を著しく損なうことも予想され、日本という国の存立が成り立たなくなる可能性もあると考えられる。これからはますます若手が減少し、とくに若手の建設系技術者は著しく減少することが予想されている。

このような状況を踏まえ、当協会では昨年「プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」において新しい試みを開始した。一つ目は地元の大学や高専との連携をはかり、若い学生さんにPC技術協会のことを知ってもらおうと同時に、どのような研究や勉強を行っているかを会員諸氏に知ってもらえるような「地域密着型ワークショップ」の開催である。今回は、香川大学、徳島大学、高知工科大学、愛媛大学と高松高専の皆さんに研究の発表と、展示会での説明会等を行ってもらった。必ずしもプレストレストコンクリートと直接関係はしない題目もあったが、どのようなことを大学等で行っているかを知るうえで貴重な経験になったと思われる。また、発表した学生も緊張はするものの、彼らにとっては新しい「プレストレストコンクリート技術協会」に参画できたという自負が得られたと思われる。二つ目は企業等のアクティビティを紹介してもらった技術展示会である。昨年と比較してより豪華な会場でそれ相応の展示を見ることは、会員相互の間でも参考になった点が多々あったと思われる。三つ目は「優秀講演賞」を原則として1セッションあたり1名選定し、閉会式で表彰したことがある。従来は発表者全員に「講演者証」を授与していたが、「賞」をもらうことは発表者としてもかなりうれしいとのコメントも聞き、これからはより上手に発表等を行う励みになるものと思われる。昨今の入札時

のプロポーザル方式の採用が新しい技術を公にしにくい風潮をつくっていたが、発表内容も良いものが選定されているため、技術の面で活動をしている当協会の活性化にもつながると思われる。四つ目は座長を極力地元の学校の先生方にもお願いをして、他の学協会との結びつきを強くした点である。今までのように専門技術者ばかりでなく、若い学生を抱えている大学等の先生方に興味をもってもらえれば、会員の増強にもつながるのではないかと考えたからである。

このような方法で、少しでも少子高齢化の時代に対応していくことは、学協会といえども努力することが大切である。今まではどちらかというとPC技術の専門家集団であることに誇りをもち、なかなか他分野の技術者との交流も行われなかった点があるが、これからはPC技術のすばらしさを自分で知っているだけではなく、他の人々にも知ってもらうよう努力することも大切であろう。わが国は昨年以來、米国のサブプライムローンの影響などにより著しく景気が悪化しつつある。とくに建設分野は1990年以降一向に回復の兆しが見えない。仕事量が著しく減少し、中小建設会社のみならず大手建設会社も苦難の日々を過ごしているのではないかと予想される。結果的に、建設分野では会社の合併、縮小、リストラなどが行われ、わがプレストレストコンクリート技術協会の会員諸氏もこの影響を著しく受けているものと考えられる。このような状況にある今日、当協会でも若い技術者の会員が増大するための方策を採用することが急務である。そのためにも学生のうちからPC技術に興味をいだいてもらうことが重要である。なお、現在のような経済状況を逆に考えれば、今はこれからの新しい技術開発や技術発展のための充電期間に相当すると考えるのも一法であろう。そのためにも「プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を活性化し、より多くの技術開発結果をこの場で公表することは大切であると考えられる。

これからのプレストレストコンクリート技術協会がますます開かれたものになると同時にコンクリート構造物全体に関する社会の関心に対処する協会として歩んでいくことを祈念して、新しい年を迎えたい。

* Taketo UOMOTO : 本協会会長 芝浦工業大学工学部土木工学科 教授